

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373500374		
法人名	福田農機 株式会社		
事業所名	グループホーム福福		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町古川534		
自己評価作成日	平成29年6月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500374-00&amp;PrefCd=33&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500374-00&amp;PrefCd=33&amp;Versi</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年8月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

8月より、デイサービスを導入しております。月曜日から金曜日まで利用できますが、今現在は一名のみが利用されており、火曜日から金曜日に利用され、利用日には、グループホームの利用者様と一緒に、工作・体操・語り部、『ごなかま』のボランティアによる習字や慰問、ご家族によるギター演奏・懐かしの歌など提供させていただき、ホームの利用者様も活気が出てきました。両棟の利用者様や職員と一緒に活動出来る機会が増え、一層、一体感が増し両棟とも活気づいたように思えます。また、ボランティア活動を利用することでホームの中を知ってもらい、理解していただける場が増えました。また、ご家族様の趣味を利用させていただき、交流も持てるようになりました。公民館で行われる『オレンジカフェ』にも参加させていただき、外部との交流も楽しんでおられます。今後も、孤立することなくオープンな施設にしていきたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

設立以来12年間、このホームを見せられて「こころが通い続けているなあ」と感じさせてくれた。利用者を職員を始め母体会社、家族や知人、近所や地域の人々、園児や生徒と先生等、それぞれの立場から支えてくれている様子が機関紙や写真、記録から読み取れた。利用者の表情や語らいからも安心して満足な人生を送っていることが伺えた。そして利用者や職員のコミュニケーションの良さが明るいホームを作っていると思う。  
介護課長(ホーム長)は「職員の個性を大切に、日常の状態を把握し、助言をして、納得して仕事をしてもらえるよう心掛けている」と言ってくれた。特に問題点を見出し、分析して課題を作り、目標達成に向かうマネージメントがしっかり出来ているモデルとなるホーム作りをしている姿も確認する事が出来た。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況		
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、常に心掛けるよう、毎日の申し送り時に職員で読み上げ業務に入っています。	「人と人との和を大切に、地域に親しまれ密着したサービスの提供」を目指しており、利用者や職員が融合し「和」の中から強い信頼関係が生まれている。全盲の利用者が終始穏やかな笑顔で職員と交わる姿が見られた。寄り添い、傾聴し、受容する個別ケアが充実しているホームであり、利用者は明るく、落ち着いた暮らしが実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々や運営推進の方々には、大変お世話になっており、ホームの行事などに参加していただいたり、また、地域の行事に参加させていただいたりと交流を深めています。『オレンジカフェ』を利用し、地域の方との交流もさせていただいている。	保育園児との交流や小学生の福祉教育の一端を担う等は定着しており、卒業していく児童から「お世話になりました」と感謝の手紙が毎年届けられている。ボランティアの活用やデイサービスの開設、「オレンジカフェ」に参加する等地域との積極的な交流が利用者の活性に繋がっている事を職員は実感しており、地域からもホームを深く理解してもらえ、良い付き合いが実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児と芋の苗植えから芋堀までを一緒に行い、利用者様が保育園児に指導する形で交流させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	13名の委員で福福委員会と名付け取り組んでいます。ホームでの生活・行事などスライドやビデオなどでも紹介しています。『AED』などの講習をお願いしたり、季節に応じて『食中毒』『脱水症』の講習を薬剤師にお願いし、職員だけでなく皆様が取り組んでいます。	「福福委員会」と名付け、行政、町会議員、地区の要職者、包括支援センター職員、利用者とその家族代表、ホーム関係者が12名で構成しており、それぞれの立場で情報交換し、ホームからは毎回笑顔満載の「ホームだより」で利用者の日常を紹介している。地域住民が一年間の交代制で参加しているため、地域にも広くホームが理解されている。	運営推進会議のメンバーも充実しており、活発な意見交換をして活動しているので、会議を委員の方に委譲して運営してみてもはどうでしょう。より活性化した会議が期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町福祉課の職員さんも、よくしてくださるので、困った時・疑問に思った時は遠慮なく相談させていただいています。	行政、包括支援センターが毎回運営推進会議に出席しているため、ホームを十分理解して相談業務もスムーズに行っている。行政が推進するボランティアの活用、オレンジカフェへの参加、デイサービスの開設などで連携を図り、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員”身体拘束はしない”ということの実践に取り組んでいます。夜間は防犯のため施錠を行いますが、日中は鍵を掛けず、いつでも出入りができるようにしています。虐待・拘束委員会を立ち上げ月に一度話し合いをしています。	虐待、身体拘束防止委員会を設け、月一回勉強会を開いている。事例などを出し合い、質問、回答を会議録に整理し、職員一人ひとりの意識を高めている。過去に、一件の身体拘束事例が発生したこともあり、このことを厳粛に受け止め、更なる勉強会を重ねて職員の共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがないかどうか、毎月のカンファレンス時に確認しています。職員は、虐待のような言動がないか気を配り、お互いに声を掛け合うようにし、管理者は適切な指導をするよう心掛け、問題があれば直ぐに対応しています。また、虐待防止についての研修会にも参加し学ばせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し、個々の必要性を問いながら関係機関と話し合い、支援できるよう努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約・重要事項説明等、詳細に分かりやすく時間をかけて説明させていただいています。 また、入居後の生活について、疑問点等あれば、その都度、相談に応じています。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族からの申し出に対して、柔軟に対応しています。御家族が来荘された時はスタッフの方から積極的に話しかけ、話しやすい環境を作っています。困ったこと・ご要望等を話されることもあり、前向きに受け止め、対応しています。	毎月「福福だより」でホームでの暮らしの様子を届けている。家族の来訪が多く、職員はこの機会を大切に捉え、意見や意向を聞いている。運営推進会議の公の場でも発言できる機会を設けている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度各棟合同のリーダー会議を本社で社長・事務長も含め行っています。各棟職員の要望・様子なども伝え、解決出来るよう十分話し合っています。	管理者と職員はケアカンファレンスの中で運営に関する事も併せて意見交換を行い、重要案件を管理者(介護課長)が毎月一回のリーダー会議(社長、事務長、部門長出席)に提出するシステムがある。管理者は、職員個々の特性を活かし十分に話し合いながら職員を育てることを第一目標にしている。入職3ヶ月の新人職員は、「何でも話しやすいし、先輩職員がよく指導してくれている」と笑顔で話してくれた。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの小さな気付きなどを褒め、指導し各職員が向上心を持ってやりがいのある職場環境に努めています。また、スタッフに声を掛け、日頃の思いを聞くようにしています。最近では職員自ら自分を反省し、管理者に報告してくる事も増えています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外研修に積極的に参加し、持ち帰り、カンファレンス等で他職員と共有しお互いのスキルを高めています。また、行きたい研修を聞き、興味を持って参加する事をすすめています。管理者の育成に力を入れ毎月一度、指導日をつくり勉強しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一度『しゃべくり』と題して他施設の多職種が集まり、最近の出来事や疑問などを話し合う場になるべく参加させてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	
				実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の不安を最小限にするよう、ご家族・施設からの情報を基に、ご本人ともじっくり話が出来るよう常に寄り添うようにしています。なるべく本人の使用していた家具・食器・写真などを持ってきていただき少しでも安心して下さるようご家族にお願いしています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時前に、十分家族と話し合い思いを聞き、本人がホームで安心して生活できるよう努めています。ご家族の不安が強い時には様子を電話連絡させていただき対応の仕方など説明し安心していただいています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況・生活歴や、現在のお気持ち等を把握し、それを職員が共有し、まずは早くホームに慣れていただける様話し合い、本人に合ったケアを考え、初期対応に努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『出来ること』『やりたいこと』を見極め提供しています。職員が間に入り、皆で協力して出来るよう、援助させていただいています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お手紙で日頃の様子や、ケアの内容などを伝え本人の状態を共有しています。またどの様な対応をしていくかご家族に相談させてもらっています。電話で本人と話をされたり、家族旅行を計画し、参加を促しています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅・懐かしい地域に、ドライブを兼ねて時折外出しています。身内の方からの手紙や、旧友などが来荘された時は職員一同、丁寧に迎え、お帰りの際は本人と一緒に玄関までお送りし、また来荘いただけるような環境作りに努めています。また、馴染みの美容院に行ってもらい関係を継続しています。	親戚、縁者の訪問が多くあり、職員は茶菓を提供し、話しやすい場所作りをする等、再会継続を意識した支援を行ってきている。又、ホームに入所してから関係作りにも力を注ぎ、定期訪問してくれるボランティアや両棟間の馴染みの関係を大切に支援している。毎月の「福福だより」に手紙を添えて発信し、家族との絆を大切にしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席など、気の合わない方同士を隣にしない様、場所を考えながら座っていただいています。基本、自由に席を選べる様にしている為、仕方なく隣になった場合は必ず職員が間に入りコミュニケーションが取れ、孤立しない様心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方で、他施設等に移られた方等には、機会があれば訪ねます。入院されている方はお見舞いに行かせてもらえるようお願いしています。 また、御家族に会う機会があれば、現在のご様子等をお尋ねしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、聞き取れない方はご家族に趣味や好きだったことなどを伺い、なるべく提供出来るようにしています。また、聞き取りでは出てこなかった事も提供して楽しんでいければ引き続き行うようにしています。この先、どう過ごしていきたいかなどを考え、ケアプランを立てるようにしています。	利用者に寄り添い、傾聴するスタイルが際立っていることから、訪問中にも、意向や思いを引き出すようとする職員の共通した姿勢と意識を感じる事が出来た。全盲の利用者が職員から声を掛けられるたびに笑顔で反応している姿が印象的であった。	目標達成計画に掲げて「意向」とはの意味をよく理解し、傾聴、情報収集し、分析作業を行っているホームである。加えて、利用者の何気なく発した言葉、つぶやき、行動等をつぶさに書き留める作業の毎日の積み重ねの中から、新しい思いを見出し、職員が思いを共有したケアが実現できることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の本人との会話の中で聴き取ったり、アセスメントを行い、本人の状況を把握できるよう努めています。また、ご家族からの情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察・記録し、状態を把握しています。早期に状態悪化を発見し、担当医に報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、まずはホームに慣れていただくことをプラン作成し、一か月後、本人・家族と話し合った内容をや、一か月のここでの情報を基に、担当職員が仮プランを作成し、担当者会議を行い他スタッフと話し合う。その後、計画作成、もしくはケアマネが本プランを立てる。後は6ヶ月ごとにアセスメントを行い、本人の心身の変化、残存能力の確認等を行い、本人の生活支援に即した介護計画が作成できるよう努めています。本人・家族には、その都度意見を求めています。	職員の担当制を敷き、担当職員が利用者を把握し、介護計画作成担当者に情報を提供し、経過記録とケアカンファレンスを基にしてプランを作成している。目標達成計画に掲げ「利用者本人の意向は何であるか」を見極めてプランニングするよう取り組んでいる。寄り添い、傾聴し、本人の動作、表情等を観察している職員の姿勢を見ることが出来た。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践や気づき・本人の発言等は、日常記録に記録し、職員間で情報を共有しています。それを基に、カンファレンス時で話し合い、介護計画を見直す資料となっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	”GHだからこそ出来る”ことを大切にしています。一人ひとりの趣味などを取り入れ他利用者様とも楽しんでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流会などを開催し、親睦を深めています。地域の行事にも参加させていただいたり、ホームの行事に参加して頂く事で、ホームの理解に繋げ支えてもらっています。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切にしています。受診時は、原則、家族に同行していただいています。	二つの提携医と専門歯科医との提携があり、提携医と協力病院との連携が強力なので利用者、家族、ホームは安心できている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くの訪問看護ステーションと医療連携を採っています。 "4回/月"の訪問時と、必要時にいつでも連絡し相談できる体制をとっています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に一度は面会に行き担当ナースに状態を聞くが『ご家族以外には教えられません』と言われ、面会時の様子やご家族からの情報を把握していくしかなかったのですがつい最近から状態を教えてくださいようになり現状把握が出来るようになりました。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、入居時に当ホームで「出来ること 出来ないこと」の説明を行っています。看取りもご家族の希望があれば行っておりますが、当ホームで対応困難な場合は、ご家族と話し合いを持ち、他施設等も紹介しています。	ホームの方針として、医療、家族、包括支援センターと連携を図りながら、本人、家族にとって最善の方向を話し合いながら、現時点で出来る事を行っている。3年前に、107歳の利用者を家族の要請で看取った実績がある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、緊急時は管理者にすぐ連絡をし指示を受けるようにしており、場合によっては担当医に連絡し、来荘してもらっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを備えています。 防火管理者・消防関係者を中心に、近所の方々にもお願いして、避難訓練等を年2回実施しています。	防災対策は運営推進会議の中でもよく討議され、万全を期している。利用者の居室等にも転倒物等の危険性を排除してある現場を確認する事が出来た。

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス時、常に話し合っており、虐待・拘束委員会でも話し合い対策を考えている。声掛けなど、とても難しく一人一人にあった声掛けをするようにしているが、当ホームの課題でもあり、月に一度のカンファレンスでも職員自らの反省として毎回上がってきており、話し合いをしています。	G. HIには稀な男性4人の利用者が一つユニットで暮らしている。職員と一緒に新聞を読む人や将棋を打つ人、トランプをする人、楽しく合唱に参加する人と、それぞれの生き方が尊重され、穏やかに、紳士然とした暮らしが保障されていた。殆どの利用者が自立排泄に近い状況の中で、終わったことを電光で知らせる装置があり、安心感とゆとりの中で排泄行為が可能な事もプライバシーの確保につながっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときや決めるときには本人に決めていただいています。決められない方の場合は、『この方ならどうするだろう』を考え決定している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶の時間に、雑談や新聞を読んだり、最近の情報収集をしています。そんな中で何となく『今日はなにをする』と話題にだし決めてもらっている。決まらない時は職員が提案している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿った服装や、お化粧品等ができるよう支援したり、昔の写真などがあれば、その雰囲気でおしゃれなどを提供しています。理容・美容に出かけることもありますし、定期的に理容師さんの訪問もあります。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒に行い、一緒に食事をする様になっています。食事中にも味や食べたいものを聞き会話も楽しんでいます。後片付けも一緒に行っています。	3年前までは副食の一部を外食業者に依頼していたが、職員数の充実が実現し、現在はホームで当番職員が調理している。一名を除き全員が自立で静かな食事風景であり、「落ち着いて、ゆっくり」を心掛けている、と職員が話している。会食、行事食も楽しんでいる。職員と一緒に前庭から夏野菜を収穫してきた利用者の姿も見る事が出来た。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を考えながら、バランスの採れた食事を心掛けています。水分量について、水分量を記録し、脱水にならないよう、注意しています。嚥下状態で、軟飯や刻み食・水分にトロミをつける等をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・義歯の洗浄・うがいを、見守り・必要に応じて介助しています。義歯の方は、夜間、洗浄剤使用しています。	

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の意思でトイレに行ける様、見守っています。なかなか行かない方には声掛けを行いトイレを促しています。オシメの方など時間でパット交換を行っています。	殆どどの利用者が自立支援なので、必要最低限の見守りと声掛けを行っている。さり気ない声掛けでスムーズに行動できており、終わったことを電光で知らせる装置があるので、職員がさり気なくドアの外で出迎える、自立支援を意識した見守り強化の実態があった。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりと行っているがムラがあり、食物繊維があるものを提供したりしている。また、医療機関とも連携し、服薬等で便秘予防されている方もいます。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外、毎日できるようにしていますが希望があったり、必要時にはいつでも入れるようにしています。本人の希望やタイミングで入浴していただけるようにしています。	入浴は週3回を原則とし、リフト付きの浴槽を完備しているので、危険回避を配慮した対応に、利用者は安心して楽しい入浴が実現している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にしていただいています。最近では皆様、昼食後、横になるよう声掛けをさせていただいています。横になれない方などはホールで過ごしてもらっています。夜間、消灯21時となっていますが、希望時に応じ好きな時間に入眠されています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用について理解するように指導しています。症状の変化についても注意しています。服用している薬のファイルもあり直ぐに調べられるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみ・食器拭き・食事作りなど、今まで行ってきた家事を中心に、毎日行っています。散歩・外出・庭でのランチ、おやつなど変化のある空間作りを心掛けています。趣味なども提供しています。デイサービスへの参加に活気が出てきています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外出したい」と希望あれば、希望が叶えられるよう、柔軟にホーム外に散歩やドライブ・近所のスーパー等に出かけています。ご家族との外出もされています。また、希望がなくても外出しています。	ホームは田園の中にあり、気軽に散歩を楽しめる環境にある。ホームの敷地は広く、快適に整備され、ベンチも備えてある。[今夏の暑さや諸般の事情で少し遠ざかっている日常の散歩を、涼しくなったら又、復活させたい]と事務長が話しており、今後の楽しみ方が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持され、どこに置いたか分からなくなり、紛失されてしまうことがあり、原則、お金の所持はお断りしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望あれば、状態を見て実施しています。本人から手紙までは書いていませんが、年賀状は書くよう進めています。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花、入居者・職員で作成した壁掛けを飾っています。温度調節など入居者が過ごしやすいよう、その都度調節しています。生活音・臭い・ブラインドの位置等にも配慮しています。また空気の入替えも行い心地よく過ごせるようにしています。	広いリビングにソファコーナーがゆったりと配置され、活動空間も十分確保されている。壁面には絵画や利用者の合同作品が程良く掲示されて落ち着きを感じる。床は全面に滑り止めの素材を使用し、転倒防止に配慮している。両棟の外回りは快適に整備され、プランターに夏の花が今を盛りに咲いているという、環境作りに配慮が深い居心地良い共用の場である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ポーチや芝生の庭にベンチを置きいつでも出てお話の出来るようにはしている。一人になりたい時にはご本人の居室でゆっくりされる事もある。また、気の合う方をお部屋へ誘うこともある。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、家族写真等、本人が馴染みの物を置くよう、ご家族にご協力いただいています。食器・衣類に関してもいつも着ているもの、使用しているものをお願いしている。	半間の物置き空間があり、加湿器、ベッド、手洗いが設置してある。各自馴染みの物を持ち込み、自分らしさを作り上げている。リビングに面した居室でドアオープンしている居室があり、リビングと一体的になり、閉塞感が無く、整然としていて、心地良く感じられた。個室での利用者の行動把握により、気配りが出来るようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや椅子の置く位置を工夫しています。また、トイレ・風呂場等には、解りやすく表示し、自分で判断できるようにしています。	